

発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会  
建設生産・管理システム部会（平成 30 年度第 1 回）議事要旨

日時：平成 30 年 11 月 21 日（水）10:00～12:00

場所：九段第 3 合同庁舎 11 階 共用会議室 4

委員からの主な発言

資料 2-1、2-2 本部会のテーマについて

- ・建設生産・管理システム部会と業務・マネジメント部会との議論の棲み分けはどう考えているか。

資料 3-1 ①週休 2 日の促進について

- ・現場の閉鎖状況に対する補正は、工事費全体に対する補正となるのか。
- ・日給の場合は作業日数が減るが単価を上げることで月当たりの給料を維持すべき。
- ・時期的な制限や占用時間が限られている工事は交代制がよいのでは。
- ・交代制の場合、現場代理人や安全担当者などが休んだ時はどう考えるのか。
- ・交代制は土日の作業なのか、24 時間の作業を対象と考えているのか。
- ・週休 2 日について、技能者は応援できるが、技術者はできるのか。
- ・業界の話をもっと聞いて、制度設計すべき。

資料 3-1 ②施工時期の平準化について

- ・数値目標は件数ベースと金額ベースがあるが、工事は金額ベースとすべき。また目標数値は業界にもアナウンスすべき。
- ・「施工時期の平準化の取り組みが進まない理由で議会の理解が得られない」とあるが、データで説明すべき。平準化できないことでコストが上がることや、平準化でコストが下がることなど、説得できるものがあればよいのではないか。
- ・技術職員の不足のため平準化できないのであれば、体制のカバーが必要。CMR の活用などを実施しなければ、本質的な解決にならず、厚い手当が必要ではないか。
- ・平準化についてはコンサル業務、設計調査でも重要。重点的に取り上げて検討すべき。
- ・橋梁では、出水期を避けた施工や維持管理等が年度下半期に集中する。平準化よりも工期を長くし、閑散期の稼働状況の改善につなげてはどうか。
- ・数値目標はよい。もう少しきめ細かい取り組みが必要という意見をいただいたので、具体的な方法についても検討すべき。

資料 3-1 ③生産性向上について

- ・ECI について、技術協力している期間は時間がかかるが、その時間にしっかりと設計ができたので結果的に工事期間を短くできる。維持修繕系が特に有効ではないか。メンテナンスの分野は設計しづらいと聞いている。橋梁補修工事にこれからも採用すべき。
- ・トンネル工事で ECI を実施している。災害対応としての採用は、工期が短くなるため効果が高いと聞いている。工事が終わってみないと評価は難しいが、緊急施工の際に、施工方法や新技術の導入を設計者と協議できるため有意義ではないか。
- ・維持補修や施工条件の厳しいところが導入しやすいのではないか。事例が集まりつつあり、始まったばかりなので、これから議論を進めていただきたい。

- 条件が不明確なものとして地質がある。地質リスクアセスメントを実施し、早い段階で地質のリスクを把握できれば有効ではないか。
- 維持管理への導入については積極的に導入すべき。生産性向上について、早い段階から検討できれば、プレキャストの導入提案などでも貢献できるのではないかと考える。
- 「追加調査」がキーワードになる。追加調査の費用をどれくらい準備できるのか。直轄工事であればそれほど心配する必要は無いと思うが、地方自治体は難しい。
- 発注者のマンパワーをどう活かすか考えることが必要。設計段階ではマンパワーがこれまで以上に必要となるが、工事の段階では設計変更が少なくなるなど、トータルとしてどう活かすか検討する必要がある。
- 広めるために改善すべきところを抽出すべき。また発注者側の技術力もつけていく必要があるのではないか。

—以上—